

## ～米の消費に関する調査結果の概要～

### <調査結果の要約>

- 家庭・自宅で食べるお米の量が増えた人 24.3% / 減った人 12.6%
- コメ消費復活は、20代～40代の主婦がけん引役
  - ～ 30代主婦のほぼ半数が、家庭で食べるお米の量が増えた ～
- 米の消費は、今後も強含みで推移
  - ～ 家庭で食べるお米の量を増やしたい人 11.6% / 減らしたい人 2.8% ～
  - ～ 米を増やした人の3割強が、今後も増やしていきたい ～
- 子育て世代の“節約志向”が内食回帰、米の消費拡大の原動力
  - 今後、家庭で食べる米の量を増やしたい理由は、
    - ～ 子供の成長等で、食事の量が増える 46% / 節約したい 39% ～
- 内食回帰 ～家庭で食べる米の量を増やした家庭の内食の増加回数は月5食程度～

食欲の秋。店頭で今年の新米が並ぶのを心待ちにしている消費者も多いと思います。

JA総合研究所では、本年1月に実施した「米の消費行動に関する調査」(平成20年3月公表)の補完として8月末～9月初旬にかけて、「米の消費に関する調査」を実施しました。

■、食品の値上げ等から「内食回帰」やコメ消費復活が言われていますが、今回の調査でも、1年前(2007年8月頃)に比べて「家庭で食べる米の量が増えた」人は24.3%で、「減った」12.6%を倍近く上回る結果となりました。特に、20代～40代の主婦層では、35%以上が「増えた」と回答しており、30代主婦では49%と半数近くにのぼっています。20代～40代の子育て世代の主婦層が、コメ消費復活のけん引役となっています。

■ 「今後(2008年8月以降)、家庭で食べるお米の量を増やしたい」人は11.6%で、1月時点の「増やしたい」10.2%を1.4ポイント上回っています。また、1年前に比べて「増えた」人の約1/3(全体に対する割合は7.8%)が、今後も「増やしたい」としており、米の消費は今後も強含みで推移するものと予想されます。

■ 今後「増やしたい」人にその理由を聞いたところ、「子供の成長等で、食事の量が増える」46%、「外食等を減らして、節約したい」39%が、他の理由を大きく上回りました。子育て世代の“節約志向”が「内食回帰」、米の消費拡大の原動力になっていると言えます。

なお、2割の人が「食料自給率を高める必要があると思うから」「健康によい/美容によい」を理由に挙げるなど、自給率への関心や健康志向も、コメ消費を後押ししています。

■ 今回の結果をもとに試算すると、家庭で食べる米の量を増やした家庭では、月に5食程度(うち米が主食の食事3～4回)、以前に比べて内食が増えたものと推測されます。

総務省の「家計調査」によると、7・8月の米の購入数量は前年同月比マイナスとコメ消費がやや足踏みをしている感があります。また、9月にはコメ消費復活に水を差すような「非食用の事故米穀の不正規流通問題」も発覚しました。一方で、米粉を原料とした商品が数多く開発され、国産米の新たな消費分野も開拓されつつあります。

新米が出揃うこの時期に、消費者の皆様には各産地の新米を食べ比べるなど、実りの秋を堪能いただきたいと思います。

## 【調査概要】

|         |                                     |            |           |           |
|---------|-------------------------------------|------------|-----------|-----------|
| ■調査方法   | インターネットリサーチ                         |            |           |           |
| ■調査地域   | 全 国                                 |            |           |           |
| ■調査主体   | 社団法人 JA総合研究所、Food Japan Network 事務局 |            |           |           |
| ■実施機関   | 株式会社 インテージ・インタラクティブ                 |            |           |           |
| ■調査日時   | 2008年8月29日(金)～9月3日(水)               |            |           |           |
| ■調査対象   | 全国の主婦・単身者男女で、家庭・自宅で調理をする人           |            |           |           |
| ■有効回答者数 | Yahoo!リサーチ モニター会員 n=1,159           |            |           |           |
|         | 合 計                                 | 主 婦        | 男性単身者     | 女性単身者     |
|         | 20代以下 121(10.4)                     | 57 ( 6.5)  | 27 (20.9) | 37 (24.3) |
|         | 30代 208(17.9)                       | 175 (19.9) | 18 (14.0) | 15 ( 9.9) |
|         | 40代 337(29.1)                       | 293 (33.4) | 19 (14.7) | 25 (16.4) |
|         | 50代 265(22.9)                       | 217 (24.7) | 23 (17.8) | 25 (16.4) |
|         | 60代 131(11.3)                       | 84 ( 9.6)  | 19 (14.7) | 28 (18.4) |
|         | 70代以上 97( 8.4)                      | 52 ( 5.9)  | 23 (17.8) | 22 (14.5) |
|         | 合 計 1,159(100)                      | 878(100)   | 129 (100) | 152 (100) |

※当調査は、「非食用の事故米穀の不正規流通問題」発覚以前に実施した調査です。

当調査は、社団法人 JA総合研究所(略称:JA総研、所在地:東京都千代田区)と、Food Japan Network事務局(略称:FJN、所在地:東京都港区)との共同で実施いたしました。

JA総研とFJNは、生産農家等の生産・販売計画作成の参考となるデータを提供するため、農畜産物に関する消費者の購買行動・食品に関する知識・嗜好などを調査・分析しています。

今までに実施した調査:

- ◎「米の消費行動に関する調査」(平成20年3月公表)
- ◎「野菜の消費行動に関する調査」(平成20年6月公表)

調査結果は、JA総研のホームページ(<http://www.ja-so-ken.or.jp>)でご覧いただけます。

～本件に関するお問い合わせ先～

社団法人 JA総合研究所 基礎研究部 主席研究員 濱田亮治 TEL 03-5214-0841

～調査データの提供について～

Food Japan Networkでは会員サービスとして、本調査の調査データを提供(有償)する予定です。お問い合わせは、TEL 03-3505-6796 服部、溝江まで

<調査結果の概要>

1. 1年前と比べて、家庭で食べるお米の量はどうか

Q 家庭で食べるお米の量は1年前(2007年8月頃)に比べてどう変化しましたか?

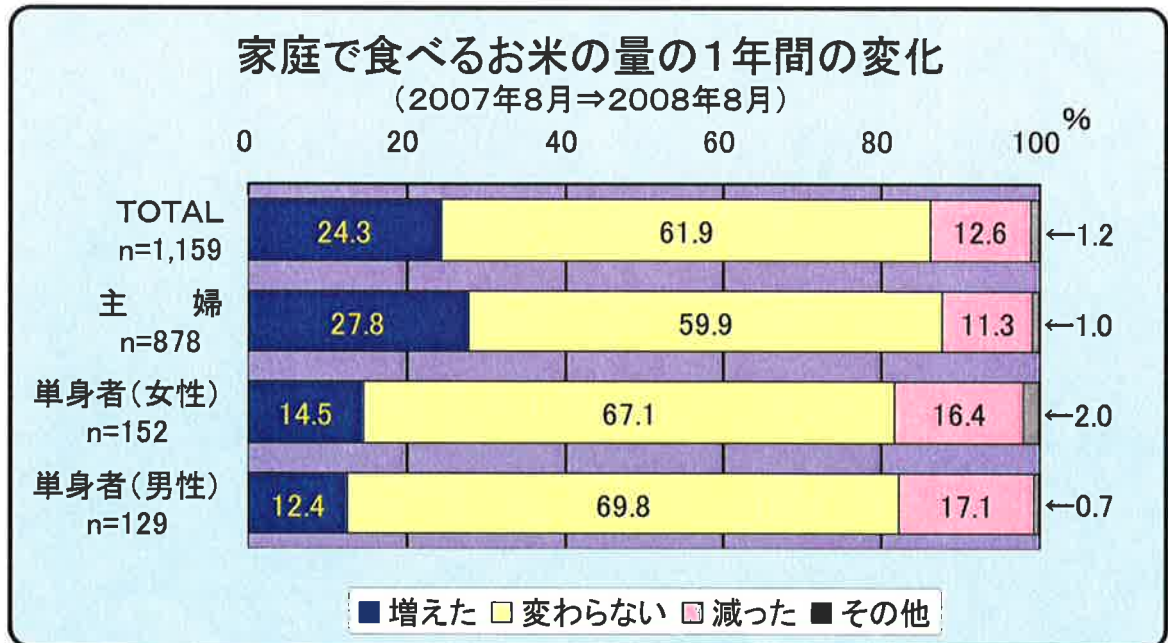
選択肢:「増えた」「変わらない」「減った」「1年前も現在も家庭では食べていない」「分からない」からひとつ選択

【 家庭で食べるお米の量が増えた人 24.3% / 減った人 12.6% 】

2008年8月現在、2007年8月頃に比べて、「家庭で食べるお米の量が増えた」人は24.3%。約1/4の人が「増えた」と回答しています。「減った」は12.6%で、「増えた」が倍近く上回っています。

主婦と単身者で見ると、主婦では3割近い27.8%が「増えた」と回答しており、「減った」11.3%を15%以上上回っています。単身者では、男女とも「増えた」人が「減った」人を若干下回っています。

図-1 家庭で食べるお米の量の1年間の変化(主婦、単身者別)



※「その他」は、「1年前も現在も家庭では食べていない」「分からない」の合計

【 コメ消費復活は、20代～30代の主婦がけん引役 】

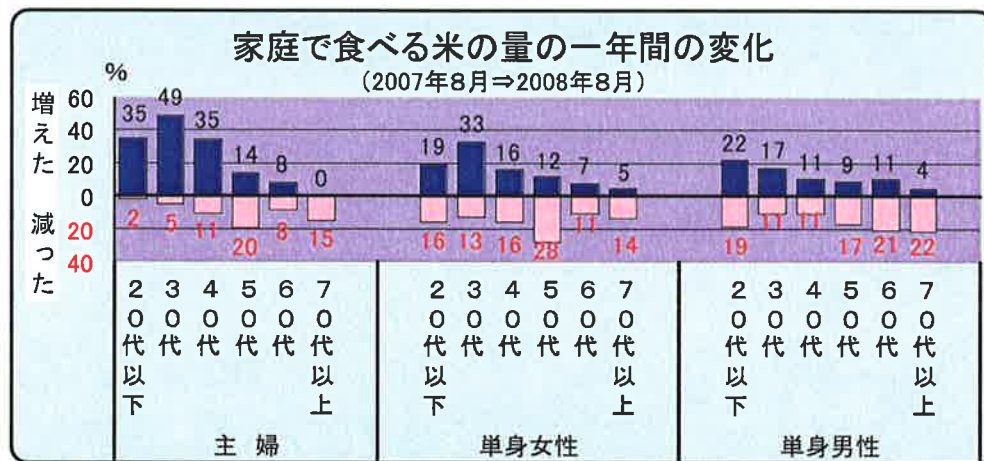
～ 30代主婦のほぼ半数が、家庭で食べるお米の量が増えた ～

年代別に見ると、主婦層の20代以下～40代で「増えた」が「減った」を大きく上回っています。特に、30代では49%、ほぼ半数が「増えた」と回答しています。

単身者でも、20代以下・30代では男女とも「増えた」が「減った」を3～20%上回っています。

主婦・単身者とも、50代以上では「減った」人が「増えた」人を上回っています。

図-2 家庭で食べるお米の量の1年間の変化(年代別)



農林水産省が2008年8月に公表した平成19年度食料需給表によると、国民1人・1年当たり米の消費(国民1人・1年当たり供給純食料)は、平成18年度の61.0kgから平成19年度は61.4kgと増加しています。また、総務省の家計調査(毎月公表)によると、二人以上の世帯の米の購入数量は、2007年9月以降、前年同月の購入数量を上回る月が目立つようになり、特に2008年1月からは連続6ヶ月間、前年同月を1.9%～6.1%の幅で上回りました。7月・8月は8.4%・0.5%減少したものの、農林漁家を除く二人世帯では8月は0.2%増加と再びプラスに転じています。

今回の調査結果から、20代以下・30代の若年層、特に同世代を含め40代までの子育て世代の主婦層がコメ消費復活をけん引しているものと想定されます。

## 2. 家庭で食べるお米の量の今後の意向

Q 家庭で食べるお米の量を、今後どのようにしたいとお考えですか？

選択肢：「増やしたいと思う」「変わらないと思う」「減らしたいと思う」「現在も家庭では食べないし今後も食べないと思う」「分からない」からひとつ選択

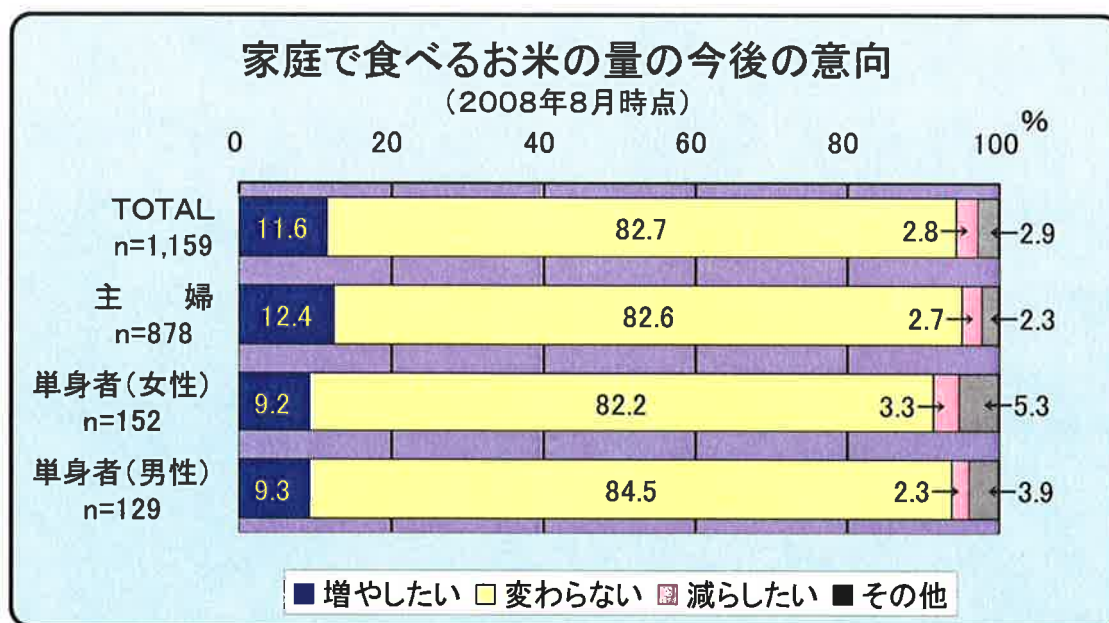
【 米の消費は、今後も強含みで推移 】

- ～ 家庭で食べるお米の量が増やしたい人 11.6% / 減らしたい人 2.8% ～
- ～ 米を増やした人の3割強が、今後も増やしていきたい ～

今後（2008年8月以降）「家庭で食べるお米の量を増やしたいと思う」人は11.6%。「減らしたい」は2.8%で、「増やしたい」が1割近く上回っています。

主婦と単身者で見ると、主婦では12.4%が「増やしたい」と回答しており、「減らしたい」2.7%を約1割上回っています。単身者でも、「増やしたい」人が女性で9.2%、男性で9.3%と、「減らしたい」人（女性3.3%、男性2.3%）を3～4倍上回っています。

図-3 家庭で食べるお米の量の今後の意向(主婦、単身者別)



※「その他」は、「現在も家庭では食べないし今後も食べないと思う」「分からない」の合計

1年前に比べた家庭で食べる米の増減と今後の意向の関連を見ると、1年前に比べて「増えた」人の約1/3は、今後も「増やしたい」と回答しており、全体の7.8%が“増やし続けたい”意向を示しています。

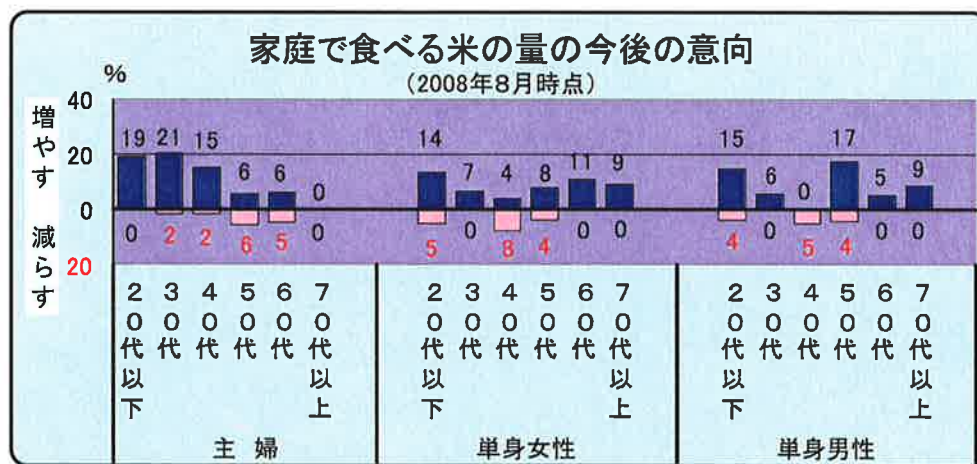
表-1 お米を食べる量の一年間の変化と今後の意向

| 1年前と比べた<br>家庭で食べる<br>米の量の変化 | 家庭で食べる米の量の今後の意向 |                |               |             |
|-----------------------------|-----------------|----------------|---------------|-------------|
|                             | 増やしたい<br>n=135  | 変わらない<br>n=959 | 減らしたい<br>n=32 | その他<br>n=33 |
| 合計 n= 1,159                 | 11.6            | 82.7           | 2.8           | 2.8         |
| 増えた n= 282                  | 32.6            | 62.1           | 2.5           | 2.8         |
| 変わらない n= 718                | 4.6             | 91.1           | 2.1           | 2.2         |
| 減った n= 146                  | 6.2             | 83.6           | 6.8           | 3.4         |
| その他 n= 13                   | 7.7             | 61.5           | 0.0           | 30.8        |

年代別に見ると、お米を食べる量の1年間の変化と同様、主婦層の20代以下～40代で「増やしたい」人の割合が大きくなっています。特に、20代以下・30代では約2割が「増やしたい」と回答しています。50代以降は、「増やしたい」「減らしたい」が拮抗しており、子育て世代（20代～40代）と子育て卒業世代（50代以降）では大きく傾向が異なっています。

単身者では、男女とも40代を除き、すべての年代で「増やしたい」が「減らしたい」を上回っています。

図-4 家庭で食べるお米の量の今後の意向(年代別)



今回の調査結果は、平成20年1月時点の調査結果（「増やしたい」10.2%、「減らしたい」3.6%）に比べて「増やしたい」が1.4ポイント増加し、「減らしたい」が0.8ポイント減少しています。以上のことから、米の消費は、子育て世代の主婦の意向を背景に、引き続き強含みで推移するものと予想されます。

### 3. 家庭で食べるお米の量の今後の増やしたい理由／減らしたい理由

Q 家庭で食べるお米の量を、今後増やしたいと思う理由は何ですか？  
選択肢から複数選択

【 子育て世代の“節約志向”が内食回帰、米の消費拡大の原動力 】  
～ 子供の成長等で、食事の量が増える 46%／節約したい 39% ～

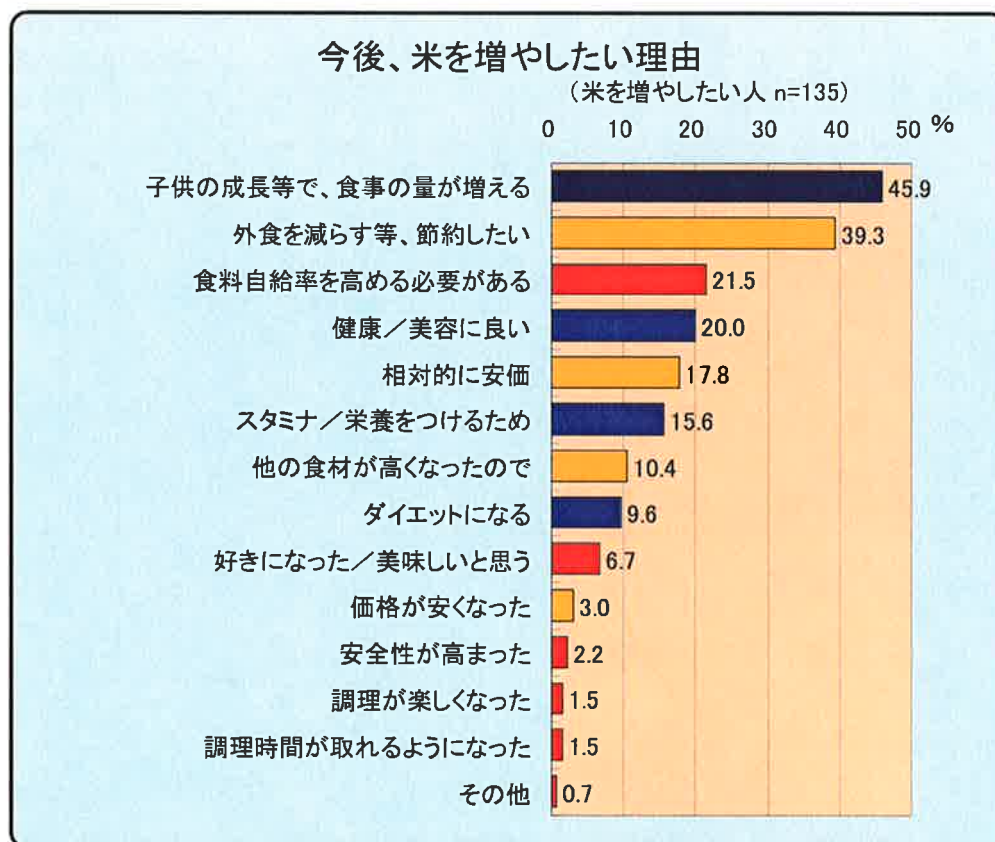
今後（2008年8月以降）「家庭で食べるお米の量を増やしたいと思う」人に、その理由を聞きました。

1位は「家族人数の増加または子どもの成長等で食事の量が増えるから」で46%の人が理由に挙げています。次いで「外食を減らすなど節約したいから」が39%で、この2つの理由が他の理由の倍の割合となっています。

子育て世代の“節約志向”が内食回帰、米の消費拡大の原動力になっていると言えます。

なお、2割の人が「食料自給率を高める必要があるから」「健康によい／美容によい」を理由に挙げており、自給率への関心や健康志向もコメ消費を後押ししています。

図-5 家庭で食べるお米の量を、今後、増やしたい理由



Q 家庭で食べるお米の量を、今後減らしたいと思う理由はなんですか？  
選択肢から複数選択

【 減らしたい理由 ダイエット/カロリー制限が6割 】

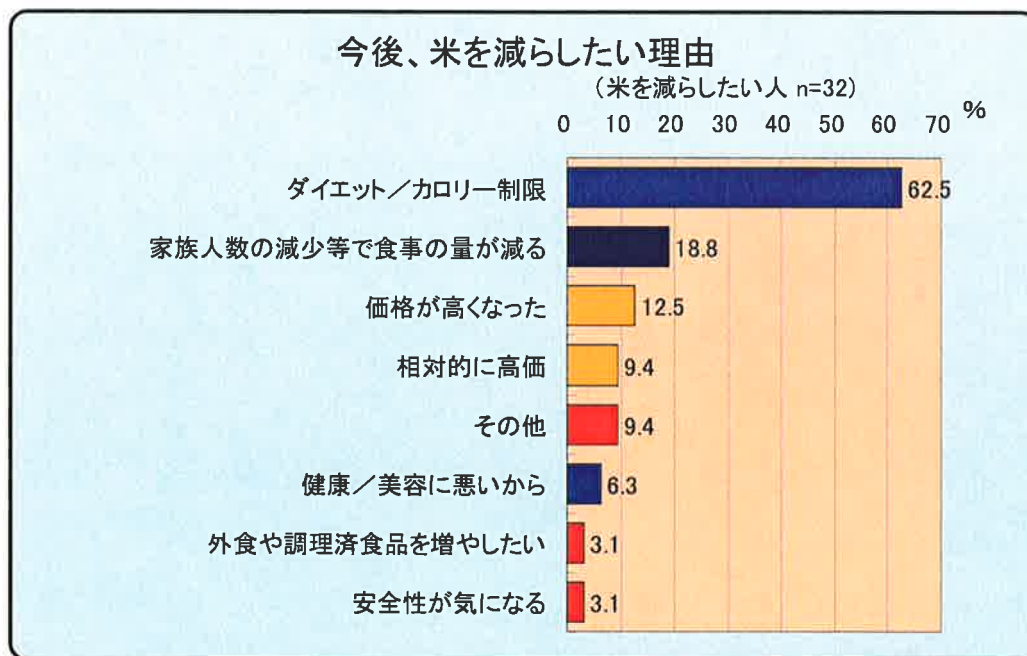
今後（2008年8月以降）「家庭で食べるお米の量を減らしたいと思う」人に、その理由を聞きました。

理由の1位は「ダイエットのため/カロリーを制限するため」で、6割強の人が理由に挙げています。次いで「家族人数の減少等で食事の量が減るから」で、2割弱の人が理由に挙げています。

お米を食べる量を減らしたい理由の1位は、「ダイエット/カロリー制限」となっていますが、増やしたい理由でも「健康に良いから/美容に良いから」、「他の食材に比べダイエットになるため/カロリーを制限するため」を理由に挙げる人も1～2割となっています。

食べすぎは別として、食と健康に関する正しい情報が必要と思われます。

図-6 家庭で食べるお米の量を、今後、減らしたい理由





## 4. その他 内食の増加回数の試算（参考）

## 【内食回帰 ～家庭で食べる米の量が増えた家庭では、内食の増加回数は月5食程度～】

今回の調査の主婦層の結果（家庭で食べる米の量が「増えた」27.8%、「減った」11.3%）を用いて、家庭で食べる米の量を増やした二人以上の世帯における、内食の増加回数を試算しました。

試算では、家庭で食べる米の量を増やした二人以上の世帯では、米を主食とした食事の回数が以前に比べて月に3～4食（3.3食）増加、内食の回数は月に5食程度（5.1食）増加した結果となりました。

## ①米の購入量の増加量 月平均120g/二人以上の世帯

2007年9月～2008年8月までの二人以上の世帯の米の年間購入数量は85.89kgで、前の1年間84.42kgに比べて年間1.47kg、月平均で120g増加しています（総務省「家計調査」）。（この間のパン類の購入数量は月平均で14g減少、めん類は5g増加で、このことから、パンや麺から米にシフトしたと言うよりも、内食が増加したと見る方が妥当と思われる。）

## ②家庭で食べる米の量が増えた世帯における米の増加量 月750g

今回の調査結果による「増えた」世帯と「減った」世帯の家庭で食べる米の量の増減量が同量であると仮定すると、これらの世帯当たりの増減量が月に±750gの時に、全体の平均で120g増となります。

## ③家庭における米を主食とした食事の増加回数 3.3回/月

二人以上の世帯では、米が主食の場合、1食当たりの米の使用量は約1.5合（225g）※であることから、750gは家庭における米が主食の食事3.3回分の米の量になります。

※「1回に炊く米の量」「炊く量の目安」（「米の消費行動に関する調査」当研究所 平成20年1月）から算出

## ④内食の増加回数 5.1回/月

家庭内の食事では米が主食の割合は65%※であるので、米が主食の食事の回数から家庭内の食事（内食）の回数を計算すると、3.3回÷65%=5.1回となります。

※「1週間に消費された料理・食品の回数」（「平成19年度食品ロス統計調査」農林水産省 平成20年9月2日公表）から筆者計算